

みずほCustomer Desk Report 2020/06/11号 (As of 2020/06/10)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

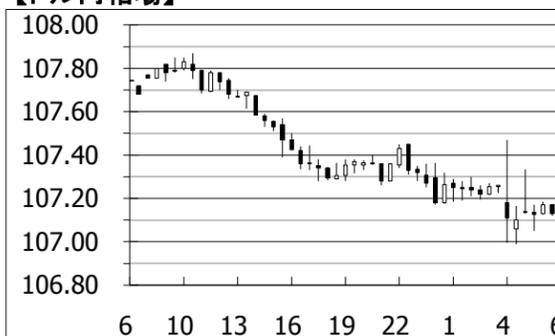
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.81
TKY 9:00AM	107.80	1.1334	122.20	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	107.87	1.1422	122.33	1.2710	0.69405
SYD-NY Low	106.99	1.1322	121.59	1.2812	0.70690
NY 5:00 PM	107.13	1.1373	121.89	1.2707	0.69330
NY DOW	26,989.99	▲ 282.31	日本2年債	-0.160	1.00bp
NASDAQ	10,020.35	66.59	日本10年債	0.020	1.00bp
S&P	3,190.14	▲ 17.04	米国2年債	0.172	▲3.17bp
日経平均	23,124.95	33.92	米国5年債	0.324	▲7.32bp
TOPIX	1,624.71	▲ 3.72	米国10年債	0.735	▲8.75bp
シカゴ日経先物	22,870.00	▲ 25.00	独10年債	-0.3310	▲1.80bp
ロンドンFT	6,329.13	▲ 6.59	英10年債	0.2680	▲6.45bp
DAX	12,530.16	▲ 87.83	豪10年債	1.0270	▲1.80bp
ハンセン指数	25,049.73	▲ 7.49	USDJPY 1M Vol	7.36	0.51%
上海総合	2,943.75	▲ 12.36	USDJPY 3M Vol	6.95	0.40%
NY金	1,720.70	▲ 1.20	USDJPY 6M Vol	7.34	0.29%
WTI	39.60	0.66	USDJPY 1M 25RR	-1.83	Yen Call Over
CRB指数	139.22	0.77	EURJPY 3M Vol	8.81	0.44%
ドルインデックス	95.96	▲ 0.36	EURJPY 6M Vol	8.78	0.38%

【昨日の指標等】

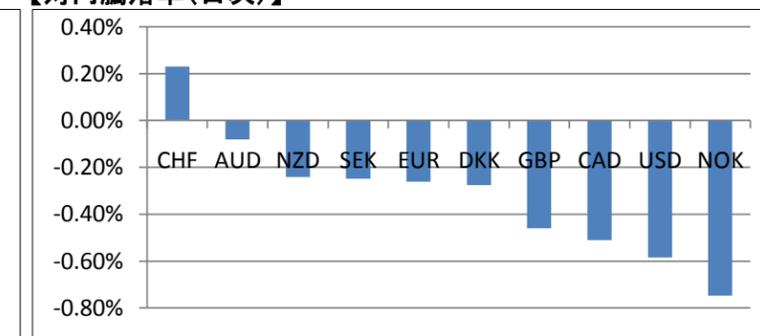
Date	Time	Event	結果	予想
6月10日	09:30	豪 ウェストパック消費者信頼感指数	6月 93.7	-
	10:30	中 CPI/PPI(前年比)	5月 -3.7%/2.4%	-3.3%/2.7%
	21:30	米 CPI(前月比/前年比)	5月 -0.1%/0.1%	0%/0.3%
6月11日	03:00	米 FOMC	現行ペースでの債券購入を継続	
	03:30	米 FOMC 政策金利	10-Jun 0.00%-0.25%	0.00%-0.25%

Date	Time	Event	予想	前回
6月11日	21:30	米 PPI(前月比/前年比)	5月 0.1%/-1.2%	-1.3%/-1.2%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	6-Jun 1550k	1877k

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	東京時間は107.80レベルでオープン。9時過ぎは実需筋の買いにより107.87まで上昇したが、その後が上値が重くなり、正午に向けてじり安の展開。午後断続的に売りが入り107.40付近まで下落。同水準で揉み合い推移して、107.43レベルでクローズ。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.43レベルでオープン。夕方に米連邦準備制度理事会(FRB)による連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて、約20銭のレンジでもみ合った。107.26まで売られる局面もあったが、107.36レベルでNYに渡った。ポンドは、1.2768レベルでオープンし、新規材料に欠けるなか、方向感なく推移した。本日の英議会で英首相ジョンソンが、「国内の飲食店の再開は7月4日を目処にしている」など、今後のロックダウンの緩和について発言をしたが、ポンド相場への影響は見られなかった。1.2790レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	海外市場のドル円は107円台後半でスタートするが、FOMCでイールド・カーブ・コントロール(YCC)の導入が検討されているとの思惑にドル売り優勢の展開となり、米金利低下とともに107.26まで下落し、107.36レベルでNYオープン。朝方は米5月CPIが発表され予想を下回るもドル円への影響は限られ、午後2時のFOMCを控え、107円台前半での振幅が続く。注目のFOMCでは、政策金利が予想通り据え置きとなり、YCCが導入されなかったことから買いで反応し、発表直後に107.47をつけるも、現行のペースで米国債やMBSの購入が続くことや、FOMCメンバーが22年までのゼロ金利を見込んでいることが意識されるとドル売りが強まり、107.00まで反落。その後パウエルFRB議長の記者会見では、YCC導入の是非についてまだ答えが出ていないことや、5月雇用統計は良好だったものの回復の道のりは長いと述べる中、ドル売りが継続し、一時107円を割り込み106.99をつける。会見が終了し、ドル売りが一巡すると107.10近辺で小動きとなり、107.13レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、FOMCを警戒しドル売りの流れが続く中、上値を試す展開となった。ECB政策委員会メンバーのミューラー・エストニア中銀総裁は「PEPPを再び拡大する必要はないかもしれない」と述べるもユーロドルの反応は限定的だった。早朝には1.1389まで上昇するも、節目の1.1400手前で伸び悩み、1.1386レベルでNYオープン。朝方は海外時間のドル売りが一服し、1.1343まで下落するが、米金利低下が続く中、この水準で下げ止まる。FOMCの結果発表直後にドル買いで反応したことから安値1.1322をつけるが、その後はドル売り優勢の流れとなり、1.14台に乗せ1.1422まで高値を更新。パウエルFRB議長の会見後、ドル売りが一巡し、1.1366まで反落し、1.1373レベルでクローズ。

【マーケット・インプレッション】 回復はホンモノか？

6月に入り、先週末には109.85円の高値を付け110円台を目指そうかという局面も見られたドル円相場だが、筆者はこのドル円の動向にやや違和感を覚えている。もちろん、株式市場の回復や米経済指標の予想外の改善、米金利の上昇などドル円上昇の理由を挙げることは出来る。しかし、これらの回復はホンモノであろうか？

5月11日の本欄において『緊急事態宣言やロックダウンが解除され始めても二次感染への恐怖感のある個人や将来への不安の拭えない企業が元通りの動きになるとは想定し難い。もうしばらくは経済への不透明感を背景とした上値の重いドル円相場を予想している』とコメントしたが、この考えは変わっていない。COVID-19への不安が少しでも拭かれることは、期待を込めた株価上昇という形で表れており明るい話題ではあるが、中南米での感染拡大や主要都市での第2波への懸念などを考えると期待先行と思わざるを得ない。

また、昨日はFOMCが開催されている。大きな政策変更は行われず、FF金利の誘導目標レンジは0~0.25%に据え置き。3月の公表を見送っていた経済・金利見通し(ドットチャート)からは失業率の低下やGDPやインフレ率の回復が示唆、FOMC参加者の政策金利見通しからは2022年までのゼロ金利維持が示唆された。しかし、そもそもCOVID-19ショックによる将来への影響をこの時点で評価出来るのかは懐疑的であり、先日クラリダFRB副議長が「どのような回復軌道をたどるかFRBが見極められるようになるには一定の時間を要する」と述べたが、COVID-19の第2波への懸念を感じている筆者としても今回の結果を前向きに捉えるには時期尚早ではないかという想いである。

これらを踏まえると、先週のように110円に迫ったような上値追いはなく、現水準のような107-108円での様子見相場の方がしっくりと来る。COVID-19の第2波懸念をはじめ、米中対立、米国の抗議デモの世界的な広がりなど、燻るリスク材料を勘案すると下値を警戒すべき状況であると考えている。(小野崎順基)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
7	13



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。